

CONTENTS

■巻頭言

■第66回全国学術大会自由論題等募集のお知らせ

■第12回太田勝洪記念中国学術研究賞について

■連載 在外研究記 第3回

■事務報告

□2015-2016年第4回常任理事会議事録

■地方部会報告

□関東部会 2016年度春季修士論文報告会

■学会スケジュール（予告とお知らせ）

□関西部会 2016年度大会のご案内

□西日本部会 2016年度研究集会のご案内

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

■巻頭言 “文化大革命”と連環画

中野 徹（近畿大学）

“文革”50年

毎年のように中国は記念の年を迎えている。2011年は辛亥革命100年や中国共産党成立90周年。2012年は文芸講話70周年、2013年は毛沢東生誕120周年。2014年は日清戦争120周年……。2015年は中国人民抗日戦争ならびに世界反ファシズム戦争勝利70周年であり、その軍事パレードは記憶に新しい方も多いただろう。そして2016年は、1966年に“文化大革命”が始まってから50周年にあたる。

国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp>) で「文化大革命」でキーワード検索（2016年5月9日現在）すると、「記事・論文」では995件ヒットし、そのうち1966年から1976年の10年間では478件にのぼる。党派性の違いによる“文革”認識の差が如実に現れ、中国への過剰な信頼と期待がもとになった記事も多いが、情報があまりない時代にあつて、日本における中国への関心の高さが窺える。しかし、2010年代の日本にあつて、中国研究者以外の人たちにとって、中国経済の成長（と崩壊）や環境問題、「爆買い」など、一部のトピックを除き、中国への関心は薄れてしまっているように見える。言わずもがなであるが、中国研究において、中華人民共和国を考えるうえで、文革は無視できないものであるが、「ブンカク」といってもピンとこない人は本学会の会員以外に増えてきている。

“十年浩劫”（十年の大きな災害）と呼ばれる文革とは何か、それを語ることは難しい。毛沢東による奪権闘争であり、紅衛兵を動員しての世界最大規模の大衆運動がもたらした人的被害や文化的破壊はあまりにも大きい。かつて文学研究では文革期は「十年の空白」とされ、断絶として語られることが多かった。しかし、否定的評価にせよ、文革の前後の連続性も当然な

が認められる。

“文革”と連環画

文革期の文学・芸術は、「一人の作家、八つの模範劇」と呼ばれ、作家浩然と、江青の指導を受けたいわゆる「模範劇」がその代表とされる。「模範劇」の隆盛をうけて、この時期に連環画は「奇形的」な発展を遂げる。

周知のとおり、連環画とは中国の絵物語の一種であり、その形式はさまざまである。1 ページに1コマの絵にキャプションが加えられた小冊子の形式がもっとも一般的なものであるが、連環画の特徴としては、日本のマンガのような自由のコマ割りではなく、四角い枠線で規定されていることが挙げられる。連環画は中華民国期から存在しているが、中華人民共和国建国後、1950、60年代には、政策の宣伝、科学知識の普及など、プロパガンダツールのひとつとして大いに活用され、その出版数はおびただしい。連環画は、2000年以降、多く再販されるようになった。時代の息遣いを色濃く残す連環画のコレクションブームもおこり、いままネットオークションなどで高額の取引がされており、古い連環画の版本は収集家たちの垂涎の的となっている。

連環画は文革開始の1966年から69年まで、一部の毛沢東賛美の連環画をのぞいて、創作は一時中断されており、出版社に保管されていた連環画の原画も被害を受けている。連環画創作が活況を見せるようになるのは、模範劇映画の連環画化した作品が創作された1970年前後からのことだ。

連環画をいかに創作するかについては1950年代からマニュアル本が存在している。連環画作家顧炳鑫による『怎樣画連環画』（連環画をいかに描くか。上海人民美術出版社、1958）は、1965年に修訂版を経て、文革中の1972年にも同名の書籍が上海人民出版社から刊行されている（以下、文革版）。文革版には、上海工農兵美術創作学習班なる組織名が冠されており、顧の名前は消されている。しかし、文革版は先行の同名書の顧炳鑫の手になる文章と同文の箇所が多数認められる。

さて、顧炳鑫『怎樣画連環画』（1958）“近景”、“中景”、“遠景”といった用語で連環画の構図の分析を行なっている。これらの語は現在では映画用語の訳語として用いられ、“近景”は「バスト・ショット」（胸から上のショット），“中景”は「ミディアム・ショット」（膝より上のショット），“遠景”は「ロング・ショット」（広々とした背景を写したショット）にあたる。また、“特写”は「クローズアップ」にあたる。この映画用語はいずれもカメラと対象との距離による分類であるが、『怎樣画連環画』における用語は、映画用語としての用法とは微妙に違う。顧炳鑫がいう“特写”は、「バスト・ショット」か「ミディアム・ショット」に相当する程度の大きさである。また、対象物を大写しにするという意味で、机のなかの小物を描くことも“特写”にあたる。文革版では文革期の連環画を例にあげながら、模範劇映画の影響を受け、「バスト・ショット」から「クローズアップ」に近い構図として“特写”が紹介されており、連環画の構図の変化が見える。

顧炳鑫は『怎樣画連環画』において、対象をとらえるアングルの違いによって、異なる視覚的效果をもたらすことができると指摘している。文革版では、“仰視”（煽り）という項目の記述の最後に「われわれが天を支えて大地に立つプロレタリア階級の英雄人物を表現するとき、

多くはみなこの仰視の角度を用いる」(53頁)、“俯視”(俯瞰)の項目の記述の最後に「普通、われわれもこの特徴を利用し、反面人物を俯視の片隅に処理し、敵の小ささを表現する」(53頁)としている。英雄人物を描くときは仰視、反面人物を描くときは俯視を用いることが多いことが言及されている。これは、模範劇映画の構図取りに見えるいわゆる「十六字の秘訣」(毛沢東の遊撃戦の戦術をもじったもの)の「敵は遠くに我が方が近くに、敵は暗く我が方は明るく、敵は小さく我が方は大きく、敵は俯瞰し我が方は仰ぎ見るように」に通じるものだ。文革期の連環画は、三突出の影響も受けているが、連環画文法を継承しつつ、より強調された形をとるようになっている。連環画には、当時の中国共産党の文芸政策が色濃く反映されているのだ。

日本における連環画研究

連環画は日本国内でも、国立国会図書館関西館や国際子ども図書館で閲覧することができる。国会図書館は「上海新華書店旧蔵書」17万冊を購入した際に、約4000冊の連環画を所蔵している。鴫田潤「国立国会図書館関西館所蔵中国連環画書名一覧」(『アジア情報室通報』第9巻第4号、国立国会図書館、2012年12月。URL <https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/bulletin9-4-1.php>)で調べることができる。そのほか、滋賀県立図書館陳コレクションも連環画を多く所蔵している。

近年、連環画研究会『連環画研究』(2012年～)が刊行されており、武田雅哉、加部勇一郎、田村容子らによって精力的に連環画研究が進められている。連環画に対する深い愛情にあふれ、熱意があふれる論考は一読の価値があるものが多い。

連環画は文革を映す鏡でもあり、貴重な資料のひとつと言える。文革は政治的に非常に敏感な問題をはらむものもいまだに多い。時の流れとともに情報公開が進み、文革時期の研究の深化が進むことを願ってやまない。



図『連環画研究』

図版説明

『連環画研究』第3号(連環画研究会、2014) / 宇佐美祥子氏の遊び心あふれるカバーデザインが楽しい。

■第66回全国学術大会自由論題等募集のお知らせ

2016年の日本現代中国学会全国学術大会を、10月29日(土)と30日(日)の日程で、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (<http://www.sfc.keio.ac.jp>)において開催することになりました。

今年の全国大会の共通論題は「リスクで測る中国の諸相」です。文化大革命を越えて市場経済化の道を歩み、急速かつ持続的な経済成長を実現した中国の国内社会は、多種多様な問題に直面しています。また経済成長にともなって国力が増大した中国の対外行動は、既存の国際秩

序をめぐって様々な議論を喚起し、国際社会の関心を集めております。

本共通論題の目的は、こうした中国をめぐって生起している政治、経済、社会文化、対外行動をめぐる諸問題を「リスク」という概念をキーワードとして整理することによって、中国の多様性を可視化し、今日、そしてこれからの中国を理解するための手掛かりを参加者で共有することにあります。

なお、本共通論題の目的は、「今日の中国国内外で生起している『問題群』がもたらす脅威」という視点で中国を展望することではありません。「問題群」を「市場経済化の道を歩むことによって飛躍的な経済発展を遂げている社会が直面しているリスク」と定義します。「問題群」を中国だけが直面している特殊な問題であると位置付けるのではなく、それを近代化の道を歩む(歩んできた)人類社会が体験する(体験してきた)課題として観察します。また「リスク」という単語の説明の仕方も多様であることに留意します。本共通論題では報告者の専門分野に引きつけて「リスク」を定義することが期待されています。

こうした視点を示すことで、私たちは中国を「中国」から少し距離を置いて観察しながら、中国の多様性を可視化させることが可能になると考えます。もちろん本共通論題は「理論」や「モデル」という大鉈で、中国をばさばさっと切り刻むことを意図しているのでもありません。あくまでも「もの差し」に過ぎません。こうした思いを込めて、共通論題の題目を「リスクで測る中国の諸相」としました。

このほか、会員の皆様からも以下の要領で募集をおこないますので、奮ってご応募ください。

◎自由論題の報告希望者の募集をおこないます。

◎テーマ分科会の開催希望者の募集をおこないます。

応募要項は以下の通りです(詳細なご依頼事項を列記しておりますが、業務混乱を避けるためです。ご理解下さい。)

①自由論題での報告(一人の報告時間は25分程度)を御希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨(800字程度)を下記⑩の連絡先までお送りください。大学院生は指導教員、またはそれに相当する会員の推薦状(推薦者の所属、氏名、連絡先、推薦理由を記載。自由書式)が必要となります。報告者は会員でなければなりません。

②テーマ分科会の開催(報告者2~3名、約2時間)を御希望の会員は、企画者の氏名・所属およびテーマ分科会設定の趣意書(800字程度)、報告者氏名と所属、報告テーマ、討論者氏名と所属、司会者氏名と所属を確定した上で、下記の申込先までお送りください。会員での構成を原則とし、変更はできません。確認の為、報告者、討論者、司会者が会員であるかどうかを明記してください。

③自由論題およびテーマ分科会にかんする連絡は、すべて電子メールでお願いします。その場合、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記載してください。なお推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち(メール本文にペースト)としてくだ

さい。ウィルス感染防止のため、添付ファイルは受け付けません。どうかご理解とご協力をお願い致します。

④締め切りは、6月26日（日）とします。

⑤学会非会員の方は、入会が報告申し込みの条件となります。入会申請（申請先は学会事務局）をしていただいたうえで、ご応募ください。入会手続きが発表までに完了しない場合でも、申請済みであれば発表は可能です。

⑥大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑦報告希望、テーマ分科会企画が多数にのぼる場合は、内容や会員歴などをふまえて調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

⑧報告申し込みをされた方には、メールにて実行委員会より申し込み受理の連絡を致します。メール送信後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。

⑨自由論題報告者は、10月17日（月）までに報告原稿またはレジュメを実行委員会まで提出してください。会場には備え付けのコンピュータはございません。報告者自身でご準備ください。

⑩申込先は、以下の実行委員会メールアドレスです。genchu2016[アットマーク]gmail.com（送信時に[アットマーク]を半角英数記号へ置き換えてください。）

⑪申し込みのメール送信をする際、件名を以下の様にしてください。

*自由論題申し込みの場合は「自由論題」

*テーマ分科会申し込みの場合は「テーマ分科会」

この機会に当学会未加入の優秀な院生の皆様にも、是非、入会と発表をおすすめくださいますようお願い申し上げます。

2016年5月吉日

日本現代中国学会第66回全国学術大会

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス実行委員会事務局（加茂具樹研究室）

■第12回太田勝洪記念中国学術研究賞について

第12回太田勝洪記念中国学術研究賞は、『中国研究月報』および『現代中国』編集委員会より推薦された論文2本が選ばれた。2016年1月30日（土）に開催された中国研究所新年会において、杉山文彦中国研究所理事長より受賞論文の発表と賞状・賞金の授与が行われた。

◎『現代中国』第89号からの推薦

松本和久会員「西安事変の『平和的解決』とソ連——外務人民委員部資料から見た中国『抗日化』認識の形成過程」（『現代中国』89号）

◎推薦理由：

松本和久「西安事変の『平和的解決』とソ連——外務人民委員部資料から見た中国『抗日化』認識の形成過程」（『現代中国』89号，2015年）は，1936年3月のソ蒙議定書締結から12月の西安事変にいたるソ連の中国認識と政治過程を，ソ連外務人民委員部文書などロシア語資料をふくむ日中ソ外交史料を用いて再構成するとともに，西安事変の「平和的解決」に対して，ソ連政府の中共に対する指示や張学良への見解の提示が大きな役割を果たしたことを示唆したものである。

周知のように，西安で張学良らが蒋介石を監禁した事件は，最終的には蒋介石が無事解放され，以後，国民党と共産党が内戦を停止して一致して抗日に向かう，歴史の大きな転換点となった。こうした西安事変の「平和的解決」のポイントは，張学良による蒋介石解放の決断がどのようにもたらされたのかであり，学説史的には，①蒋介石の諾言，②中共の「平和的解決」方針，③ソ連・コミンテルンの指示と見解，をどのように関連づけて理解するのかにある。

本論文は③について，ソ連が一貫して「平和的解決」を目指していたことを示すとともに，その背景にある対中国認識が形成された過程を明らかにしたものである。「満洲国」とモンゴルの間の紛争頻発に対応するため，ソ連はソ蒙議定書を締結し，日本はこれに対抗するために，共同防共の名目で中国との対ソ軍事同盟の締結を目指した。しかし，川越・張群会談で蒋介石は実質的にこれを拒否し，さらに11月の綏遠事件によって日中関係は険悪になるとともに，輿論においても政府への支持が強まった。この政府や輿論に抗日の機運が充満していく状況が，南京駐在の外交官らから詳細にソ連中央に報告されており，ソ連にとって蒋介石は抗日的＝自らの政治目標と合致する人物，だったのである。②の中共の方針は，こうして導かれるソ連の「平和的解決」という指示を受け入れて，対応を変化させたものである可能性が高い。

以上が本論文の要旨である。西安事変の研究は数多いが，本論文はソ連側の認識と対応を論じた点，ロシア語史料をふまえた分析と考察が1936年の中国の政治過程に対する新たな知見を提示している点で，高く評価されよう。無論，本人も明記しているように，中共の対応への影響については可能性の指摘に留まっているが，現在の史料状況の下では，これ以上は困難であると思われる。論旨は読者を仰天させるというほどではないが，実証は着実であり，また松本氏は近年1930年代の中ソ関係を軸に意欲的に研究を発表しているので，若手奨励の意味からも，編集委員会はこの論文を太田記念賞の候補として推薦する次第である。

■連載 在外研究記 第3回

「ハーバード大学 EALC 滞在記」 濱田麻矢（神戸大学）

2015年の7月末から2016年1月末まで，ハーバード大学東アジア言語文明学部（EALC）の客員研究員（visiting scholar）となった。米国における中国現代文学研究について感じたことは『東方学』132輯（2016年7月刊行予定）の「内外学界消息」欄に投稿したので，こちら

ではもっと具体的な、手続きの進め方についてご紹介したい。私のように、まったく米国経験がないものの、研究休暇を米国で過ごしたいと考えている人に参考にいただければ幸いです。

ともかくにも、まずは受け入れ教授に連絡して同意をとることから始めなければならないが、これは早ければ早いほどよい。ハーバード EALC の場合、客員研究員枠は内部の教授が一人 1 名まで推薦できるということである。私の場合、渡航希望期間開始の 2 年ほど前に王徳威先生にお願いのメールを書いて快諾していただいた。

米国のアカデミックイヤーは七月から始まる。7 月から受け入れてもらいたいならば、前年 12 月には必要書類を揃えて送付しなければならない。その際指定されたのは(1)客員研究員申請書、(2)A4 で 1、2 枚の研究計画書、(3)履歴書、(4)英文の推薦書 3 通 (わたしは母校での指導教授と勤務先の講座の主任教授、そして機関の長に書いていただいた)、(5)勤務先からの財政補助証明(月割りで 2000 ドル以上必要)、(6)英語力の証明書(形式自由とのことだった)。全て見よう見まねで、ネットに氾濫する情報を頼りに作成し、英語ネイティブの友人に逐一チェックしてもらった。英文の履歴書の形式が日本や中国のそれとは全く異なること、推薦書には大学独自のレターヘッドが必須であることなど、いざ始めてみるまで知らなかった常識は多い。英語力証明については、「もう少し勉強してから」と受験を先延ばしにしていたところ、TOEIC も TOEFL も IELTS も全く間に合わないタイミングになってしまった。申請間際に慌ててオンライン上で受験できる CASEC というサービスを探し当て、TOEIC の見積もりスコアを PDF で発行してもらうことでなんとか辻褄を合わせた。

教授会で承認され、客員研究員候補として正式に推薦されたという連絡を受け取ったのは翌年の 3 月であった。ここまでは全て王先生とのやりとりだったが、ここからは EALC のアドミニストレーターとのやりとりとなり、改めて追加の資料を送るよう指示される。

追加で送るよう言われたのは以下の資料。(1) 財政証明。公的機関の補助と個人の預金とを合わせて 30000 ドル以上になるという英文証明。先に大学からの財政補助証明を再発行してもらったほか、メインバンクに行って預金残高を英語で証明してもらう。この証明に意外に時間と費用がかかった。(2) 英語能力証明書。先に送った CASEC はやはり無効であったらしく、TOEFL80 以上もしくは IELTS 7 以上の証明を送るか、受け入れ教員による英語インタビューを受けるようにとの指示あり。「TOEFL も IELTS も間に合わないタイミングなのでインタビューをお願いします」と腹をくくってアドミニストレーターに連絡すると、折り返し「インタビュー不要と受け入れ教授からうかがいました」との返事をいただいた。(3) 同意書。(PDF で送られてくるものにサイン)

以上のものを揃えて送ると J1 ビザのためのインビテーションが送られてくるので、申請者は自分でビザ取得の手続きをとる。わたしの場合、その時期北京にいたので北京の米国領事館に発行を依頼することになった。この手続きが大変ややこしかったが、中国で米国ビザを取得する日本人がそんなにいるとも思えないのでこちらは割愛する。

EALC の客員研究員は名義的なもので金銭のやりとりは一切ない。オフィスは提供されず、住居の斡旋もない。ハーバード近辺の家賃は大変高いというので気を揉んだが、結局事前にネット上で日系の不動産会社に頼り、渡米後即入居可能という物件を確保した。

以下、わたしのように不慣れながら米国での長期滞在を目指す人のために、いくつかアドバ

イスをしておきたい。

まずは、できるだけ多くの人を紹介してもらうこと。わたしの場合、王先生には早めに連絡したが、些細なこと（書類の書き方や下宿の探し方）を相談する相手が見つからず、不安な思いをすることがあった。そこで渡米後別の土地に行くときは、必ず前もって当地の研究者への紹介状をとるほか、その研究者に彼女／彼の学生を紹介してもらって、図書館の使い方や公共交通機関の利用法などを気軽に尋ねるようにした。どうしてハーバードに行く前に「生活上のことをいろいろ聞ける学生を紹介してください」と王先生に一言聞く知恵がなかったのか、今となると悔やまれる。

もう一つは、当たり前なことだけれどもとにかく英語に慣れておくこと。TOEFL や IELTS のスコア云々より、毎週の授業についていくためには大量のリーディングをこなさねばならない。わたしの場合は、英会話などよりもとにかく語彙が貧困であることに苦しみ、滞在中に GRE 用の問題集を使って毎日大量の単語を詰め込んだ。この努力は渡航前にしておくべきだったと思う。

最後に、心構え。ハーバードの中国関係部署はいろいろあるけれども、EALC では客員研究員は完全に放置されている。「遠来の客人」として何か話をするように求められたり、関係する研究者と食事に行ったりというような、東アジアでよく見られるような交流は基本的にない。授業に出ることは基本的に自由だが、そこで発言することも全く期待されていない。客員研究員同士で顔を合わせるというような場も皆無なので、特に最初は図書館で本を借りる以外、誰とも口をきかない日が多かった。研究以外に、何かその地で出来る楽しみを見つけておくといいかもかもしれない。私の場合、それはブリュワリー巡りで、土日が来るたびにネットで計画をたて、辺鄙なところにあるマイクロブリュワリーを探し当てて一人でアメリカンビールを楽しんでいた。美術館巡りでも音楽でもスポーツでもいいのだが、特に単身での渡航なら、研究+αの部分に楽しみを見つけることが重要だと思う。

■事務報告

□2015-2016 年第 4 回常任理事会議事録

日時：2015 年 3 月 2 日 14 時から 16 時

場所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス α 館第 2 会議室

出席者：川島真理事長、田中仁副理事長、阿古智子会計担当理事、北川秀樹関西部会代表、大澤武司西日本部会代表、王雪萍広報委員長、高見澤磨規約・財務健全化委員会座長、巖善平開催校代表（2015 年）、加茂具樹事務局長

欠席者：山本真編集委員長、趙宏偉関東部会代表、菊地一隆東海部会代表

◎報告事項

1. 会務報告

加茂事務局長より、会員数について報告があった。2016 年 2 月 29 日現在で、個人会員は 731 名。団体会員は 5 団体。この間の新規入会は 13 名、再入会・復会者が 1 名、退会者が 4 名。

2. 会計報告

加茂事務局長より、会費納入状況について報告があった。2月29日現在、731名の会員のうち、未納なしが384名、未納1年が234名、2年が43名、3年が37名、4年が33名。

また阿古会計担当理事より、中間決算についての報告があった。学会誌第89号の広告掲載料収入について、大学生協学会支援センターへの支払い状況についての報告があった。引き続き学会財政状況が緊迫していることから、支出削減の方針を維持することが確認された。

3. 編集委員会報告

山本編集委員長より書面での報告があった。

1) 『現代中国』編集状況

山本編集長より、『現代中国』90号目次案に基づいて報告があった。投稿論文が12本あった。また大会特集4本、コメント2本の掲載を予定している。書評は分野毎に1本推薦で5本を書評担当の大西副委員長より依頼をおこなっている。9月末の発行を目指して編集がすすめられているとの報告があった。

2) 編集作業にかかる問題点・改善点

山本編集長より、投稿される論文のなかに投稿規定を守らないものがあることについての問題提起がなされた。これについて理事会は、編集委員会の意向に従って学会HP上の投稿規定の記述をより明確にするほか、投稿規定を遵守していない投稿論文については編集委員会の判断で受理しないなどの対策をとることが可能であることを確認した。また今後の学会誌の印刷等にかかる業務の依頼先業者の選定については、昨年度と今年度の状況をみて、適切に判断することを確認した。

4. 広報委員会報告

1) 王広報委員長より、学会HP、ニューズレター等の発行状況をふくめて活動状況の報告があった。

2) 王広報委員長より、「会員web-site」ページの廃止およびデータ削除、「学会掲示板」の新しい内規にともなう修正作業をすすめたことについて報告があった。ただし学会ホームページ上の左側バーにある「会員告知欄」の表記については技術的な問題（同表意は画像データで保存されているため）から、修正作業をすぐにおこなえないことが報告があり了承された。

2) 王広報委員長より、第47号ニューズレターの発行が遅れたことが報告された（すでに発行済み）。

5. 地域部会報告

1) 加茂事務局長より、部会理事録にもとづいて、1月9日に関東部会理事会が開催されたことについて報告があった。5月14日(土)に東京大学で関東部会2016年春期修士論文報告会が開催される予定についての報告があった。2018年度全国大会の開催校については現在調整中であるとの報告があった。

2) 北川関西部会代表より、2015年12月12日に事務局会議が関西学院大学大阪梅田キャンパ

スで開催され、2015年度全国学術大会についての報告および2016年度関西西部会大会についての意見交換をおこなった、との報告があった。6月4日(土)に龍谷大学深草キャンパスにて2016年度関西西部会大会の開催予定についての報告があった。

3) 大澤西日本部会代表より、4月16日(土)に西南学院大学にて西日本部会第1回部会理事会を開催する予定があることの報告があった。また6月18日(土)に西日本部会研究集会を開催する予定であるとの報告があった(事務局注:当初の予定は熊本学園大学大江キャンパスであったが、その後、熊本震災発生のために会場を西南学院大学西新キャンパスへ変更があることが告知されています)。

6. 加茂事務局長より、国立研究開発法人学術振興機構との間で「中国・アジア研究電子アーカイブ化に関する覚書」を2015年11月17日に締結したことの報告があった。この締結を踏まえ、運営するウェブサイト「中国の科学技術の今を伝える Science Portal China」にて本学会誌『現代中国』のバックナンバーを検索することが可能になることが報告された。

◎審議事項

7. 新入会の承認

合計13名の新期の承認案件が提出され、承認した。

8. 学会事務局と学会常任理事の担当業務との業務分担について

加茂事務局長より、2月4日に川島理事長、山本常任理事(編集委員長)とともに日本現代中国学会事務局を訪問し、今後の業務分担について確認したことが報告された。

9. 新理事会選挙について

加茂事務局長より、学会理事会および常任理事会が、学会規約第10条(役員)にもとづいて、2017年度-2018年度学会理事選挙を実施するにあたり、選挙管理委員会を設けることを審議し、承認したことの報告があった(詳細については学会ニューズレター第47号にて報告済み)。

10. 2015年全国大会について

加茂開催校代表(2016年)より、2015年10月29日(土)と30日(日)に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにて開催を予定している2016年全国学術大会の準備状況についての報告があった。

以上

■地方部会報告

□関東部会 2016年度春季修士論文報告会

関東部会は2016年5月14日(土)、東京大学駒場キャンパス(2号館308号室)において「2016年度春季修士論文報告会」をおこなった。報告は七つ、参加者は35名ののぼり、活発な議論が展開された。各報告のテーマと内容は次のとおりである。

第一報告(村上昂音/東京外国語大学・院)「公立学校における農工子女の学習状況の実

態と課題——上海市 Y 中学校の調査を基に」は、農民工子女の学習実態を上海を事例に解明した。報告では、学習努力は階層と相関関係にあり、家庭・社会の文化資本からも影響をうけている、したがって学校・教師の果たす役割が重要だ、との指摘があった。

第二報告（李雪明／東京大学・院）「東北軍閥の間島朝鮮人支配と民族自救運動」は、北京政府期の間島における朝鮮族の自救運動を分析した。報告では、東北政権と日本の緊張関係が、ソ連やコミンテルンの共産主義思想の影響も受けながら、間島の民族自救運動を導き出した、との指摘があり、東アジア国際政治史の一コマとして位置づけ直せる可能性が見いだされた。

第三報告（高柳峻秀／東京大学・院）「戦間期日本知識人の中国ナショナリズム認識——「排日教育」問題を中心に」は、1930年代の日本の知識人がなぜ大陸侵出を支持したのかを分析した。報告では、日本の知識人たちが国民政府のナショナリズム政策を許容できなくなり、国民政府の「排日教育」の排除とそれに代わる新教育を促進するために大陸侵出を支持したのではないかと、との結論が示された。

第四報告（徐偉信／東京大学・院）「戦後初期における中国の政治宣伝：国民党と共産党に対する考察（1945-1946）」は、日中戦争終結から国共内戦再開までの国共両党の宣伝政策のあり方と特徴を分析した。報告では、両党の宣伝政策による相手への相互不信感が国共両党の長期的な不信感へとつながっていった、と指摘された。

第五報告（森巧／一橋大学・院）「1950年代の中華民国政府の対日外交と僑務、海外党務——在日華僑送還問題と日中貿易問題を中心に」は、国民党の海外党務が1950年代にどのように再編されたのかを重点的に分析した。報告では、第一次台湾海峡危機を契機にして海外党務の改革が促され、蔣経国を中心とする海外対匪闘争工作統一指導委員会（海外統指会）が設置された、とのことであった。

第六報告（河合玲佳／東京大学・院）「胡耀邦政権研究——政策論争を中心に」は、胡耀邦が改革開放において何を推進し、その過程でどのような論争が展開され、なぜ胡耀邦が失脚に至ったのかを考察した。報告では、経済政策・特区、農村・チベット、軍事・外交、ブルジョワ自由化と政治体制改革などをめぐる議論が詳細に分析され、客観的な胡耀邦像を描き出した。

第七報告（李佳楠／東京大学・院）「中国の「法院調解」制度に関して——民事訴訟を中心に」は、「法院調解」の歴史的起源と現状を的確に整理した。現在、「法院調解」が存在感を増している理由は、人民法院の人事評価システムや各人民法院の成果を比較するロジックが働いているからではないのか、との結論が示された。

■学会スケジュール（予告とお知らせ）

□関西西部会 2016 年度大会のご案内

日本現代中国学会 2016 年度関西西部会大会のプログラムをお届けいたします。周囲の方々に

もお声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

出欠につきましては、別紙「参加申込書」にご記入の上、5月31日（火）までに、メールまたはファックスで事務局総務宛にご回答ください。会場の都合上、事前に参加人数を把握する必要がございますので、お手数ですがご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

参加申込書送信先：関西西部会事務局（総務）西村正男

メール：nishimur[アットマーク]kwansei.ac.jp ファックス：0798-51-0955（「西村宛」と明記願います。送信時に[アットマーク]を半角英数記号へ置き換えてください。）

◎日本現代中国学会 2016年度関西西部会大会〈プログラム〉

日時：2016年6月4日（土）9:30～17:15（受付は午前9時より開始）

会場：龍谷大学深草キャンパス和顔館地下一階（京都市伏見区深草塚本町67）

京阪本線深草駅徒歩3分

アクセス、地図 http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_fukakusa.html

参加費：無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】 9:30～12:00（報告30分、コメント・討論20分）

【文学・芸術分科会】

司会：今泉秀人（大阪大学）

第一報告（9:30～10:20）：阿部沙織（関西学院大学・非）「虹影『K（英国情人）』試論—交錯する中国/女性へのまなざし」

コメンテータ：濱田麻矢（神戸大学）

第二報告（10:20～11:10）：林麗婷（同志社大学・院）「文学における日本留学—南武野蛮『新石頭記』を中心に」

コメンテータ：山田敬三（神戸大学名誉教授）

第三報告（11:10～12:00）：岡野翔太（大阪大学・院）「戦後日本華僑と「新中国」音楽—台湾人と大陸引揚者の遭遇」

コメンテータ：西村正男（関西学院大学）

【歴史分科会】

司会：田中仁（大阪大学）

第一報告（9:30～10:20）：菊地俊介（立命館大学研究員）「戦後中国における漢奸処理条例の解釈と運用をめぐる問題」

コメンテータ：馬場毅（愛知大学名誉教授）

第二報告（10:20～11:10）：団陽子（神戸大学・院）「敗戦国日本の残存艦艇分配問題をめぐる中華民国政府のスタンス」

コメンテータ：石黒亜維（大阪商業大学）

司会：田中剛（帝京大学）

第三報告（11:10～12:00）：和田英男（大阪大学・院）「内モンゴル自治区における反右派闘争」

—『内蒙古日報』を中心に—

コメンテーター：馬場毅(同上)

【社会・環境分科会】

司会：北川秀樹(龍谷大学)

第一報告(9:30~10:20)：胡毓瑜(大阪大学)・三好恵真子(大阪大学)「舟山における漁民の実情とそれに基づく漁業資源管理制度の実行方式に関する考察」

コメンテーター：窪田順平(総合地球環境学研究所)

司会：松村嘉久(阪南大学)

第二報告(10:20~11:10)：南玉瓊(立命館大学・院)「朝鮮族の深圳市への移動とエスニック・コミュニティの形成」

コメンテーター：小林正典(和光大学)

第三報告(11:10~12:00)：焦従勉(京都産業大学)「ダム事業をめぐる中国の環境ジレンマ—怒江ダムを事例に—」

コメンテーター：窪田順平(総合地球環境学研究所)

昼食休憩(12:00~13:15)

【共通論題 シンポジウム】 13:15~17:15

「流動化する中国の行方」

全体司会・趣旨説明：北川秀樹(日本現代中国学会関西部会代表・龍谷大学)

討論司会：宇野木洋(立命館大学)

【報告】

13:20~14:00 経済 「新常态の中国经济とその行方」 巖善平(同志社大学)

14:00~14:40 思潮 「リベラル思潮をめぐる歴史的考察」 水羽信男(広島大学)

14:40~15:20 社会 「中国人のモビリティの変容」 松村嘉久(阪南大学)

休憩(15:20~15:35)

15:35~16:15 映画 「カルチュラル・アサイラム—中国インディペンデント・ドキュメンタリーの位相空間」 秋山珠子(立教大学)

16:15~16:45 フロアーからの意見および質疑

16:45~17:15 フロアーとの討論およびまとめ

[懇親会] 17:30~19:30

会場：22号館地下食堂ホール1

一般5,000円 学生(院生)3,000円 *参加希望者は必ず事前にご連絡をお願いします。

◎関西理事会のご案内

昼食休憩中(12:00~12:45)に関西理事会をB102にて開催いたします。関西理事の方は、5月31日(火)までに出席を事務局宛お知らせください。

◎参加者の皆さんへ

1. 会場には、駐車場、駐輪場はありませんので、公共交通機関でお越しください。
当日の昼食は周辺のレストランをご利用になるか、お早めに周辺のコンビニなどで弁当を購入するようお願いいたします。
2. 出張依頼状は公印を押す必要があるため、全国事務局で発行します。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。
〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局
Tel 03-5307-1175、 Fax 03-5307-1196 E-mail: genchu[アットマーク]univcoop.or.jp (送信時に[アットマーク]を半角英数記号へ置き換えてください)
3. 関西部会大会では、学会費の取り扱いはいたしません。学会費は本部事務局に納入ください。本部事務局振替口座番号は、学会 HP に記載されています。
4. 混雑が予想されるため、報告者の方は、配布資料をあらかじめ印刷してご持参下さい。

日本現代中国学会関西部会事務局
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学政策学部 北川秀樹研究室

連絡先：

事務局総務・西村正男

nishimur[アットマーク]kwansei.ac.jp (送信時に[アットマーク]を半角英数記号へ置き換えてください)

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学社会学部

ファックス：0798-51-0955 (西村宛と明記ください)

□ 西日本部会 2016 年度研究集会のご案内

日本現代中国学会 2016 年度西日本部会研究集会のプログラムをお送りさせていただきたく存じます。ぜひ奮ってご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。なお、本年度の研究集会は当初、熊本学園大学での開催を予定しておりましたが、熊本震災発生のため、会場を変更させていただきました。また、一部、報告者を追加し、ご案内（プログラム追加版）とさせていただきます。

研究集会ならびに懇親会への出欠につきましては、お手数ですが、必要事項をご記入のうえ、メールにて 6 月 10 日（金）までに部会代表までお知らせいただければ幸いです。なお、研究会ならびに懇親会につきましては、当日のご参加も大歓迎です。ご協力何卒宜しくお願い申し上げます。

参加申し込み連絡先：熊本学園大学 大澤武司研究室（西日本部会代表）

メール：osawa[アットマーク]kumagaku.ac.jp (送信時に[アットマーク]を半角英数記

号へ置き換えてください)

日時：2016年6月18日(土) 午後1時 開会

場所：西南学院大学(西新キャンパス) 学術研究所 大会議室

アクセス <http://www.seinan-gu.ac.jp/accessmap.html>

13:00～ 開会のことば

13:05～ 第1報告「孫文の革命協力者・山田純三郎による革命派支援のための中国資源開発への関与とその実態について—1910年代後半から20年代、山田の人的ネットワークを含めつつ(仮)」

武井義和 会員(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)

13:40～ 第2報告「台湾の戦後処理における日本人、台湾人、台湾華僑」

和田英穂 会員(尚綱大学)

14:15～ 第3報告「大躍進期の食生活と農村女性の役割(仮)」

横山政子 会員(志学館大学)

*第1報告～第3報告(歴史・思想) 司会：大澤武司 会員(熊本学園大学)

14:50～ 休憩

15:00～ 第4報告「龍瑛宗の戦後作品に関して」

新谷秀明 会員(西南学院大学)

15:35～ 第5報告「周作人の児童観について」

呉紅華 会員(九州産業大学)

*第4報告・第5報告(言語・文学) 司会：間ふさ子 会員(福岡大学)

16:10～ 休憩

16:20～ 第6報告「福建省の経済政策と対台工作」

下野寿子 会員(北九州市立大学)

16:55～ 第7報告「反骨のジャーナリスト・戴煌のこと」

横澤泰夫 会員(元熊本学園大学教授)

17:30～ 第8報告「社会資源としての党員(仮)」

大田千波留 会員(九州大学)

*第6報告～第8報告(政治、社会) 司会：和田英穂 会員(尚綱大学)

18:05～ 閉会のことば

18:10～ 総会

18:30～ 懇親会(会費は当日ご案内させていただきます)

*問い合わせ先 西日本部会代表 大澤 武司 (osawa[アットマーク]kumagaku.ac.jp)
(送信時に[アットマーク]を半角英数記号へ置き換えてください)

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

杜崎群傑『中国共産党による「人民代表会議」制度の創成と政治過程：権力と正統性をめぐって』

て』(御茶の水書房、2016年1月)

日本大学生物資源科学部編『東アジアにおけるローカルフードシステムの再編と展望(日本大学生物資源科学部・国際地域研究所叢書XXX)』(龍溪書舎、2016年1月)

宇山智彦編著『ユーラシア近代帝国と現代世界(シリーズ・ユーラシア地域大国論4)』(ミネルヴァ書房、2016年2月)

佐藤量『戦後日中関係と同窓会』(彩流社、2016年2月)

瀬戸宏『中国のシェイクスピア』(松本工房、2016年2月)

金紅実『中国の環境行財政—社会主義市場経済における環境経済学』(昭和堂、2016年2月)

加藤弘之『中国経済学入門』(名古屋大学出版会、2016年2月)

加藤弘之・梶谷懐編著『二重の罫を超えて進む中国型資本主義—「曖昧な制度」の実証分析—(Minerva人文・社会科学叢書209)』(ミネルヴァ書房、2016年3月)

金香男編著『アジア共同体への信頼醸成に何か必要か—リージョナリズムとグローバリズムの狭間で』(ミネルヴァ書房、2016年3月)

沈潔・澤田ゆかり編著『ポスト改革期の中国社会保障はどうなるのか—選別主義から普遍主義への転換の中で—(Minerva Library〈社会保障〉3)』(ミネルヴァ書房、2016年3月)

安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障(慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究シリーズ)』(慶應義塾大学出版会、2016年3月)

『地域研究』(地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会編、京都大学地域研究総合センター発行) Vol. 16, No. 2 (2016年3月)

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL:03-5307-1175

FAX:03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp 郵便振替:東京 00190-6-155984

広報委員長：王雪萍（東洋大学）

ニュースレター編集：菅原慶乃（関西大学）

日本現代中国学会HP：<http://www.genchugakkai.com>

=====